

(別紙)

## 特記作業内容

### 1. 企画

(ア)見本と同等以上の品質を維持するため、以下の点に留意する。

- ① 国土地理院発行の最新の5万分の1地形図を用いること。
- ② その際に関係諸機関への諸手続きを行うこと。
- ③ 公共測量作業規定(及び1/50,000 図式規定)を遵守すること。
- ④ 特色印刷工程に留意した版構成とすること。
- ⑤ ネガタイプ多重焼工程に留意した版構成とすること。

(イ)資料収集計画の立案

- ① 必要とされる資料を検討し、担当者にその旨、連絡すること。
- ② 貸与された資料は十分に管理すること。
- ③ 現地調査が必要な場合は受注者の負担とする。

(ウ)貸与資料

- ① 既存図に修正指示を加筆したもの
- ② その他、必要とされる資料

※既存管内図は業務上必要とされる地形を独自に編集してあるため、  
最新の地形図との差分については、受託者側で抽出して反映させること。

### 2. 編集

(ア)地形図等の一般図の編集

- ① 資料を精査し、目的に応じた地理情報の「価値判断」「取捨選択」を行うこと。
- ② 縮尺に応じた表現方法を採用すること。
- ③ 基図(国土地理院発行5万分の1地形図)を選定し、発注者の承認を得ること。
- ④ 編集原稿を作成し、内容について発注者の承認を得ること。

(イ)基図の作成

最新の国土地理院発行5万分の1地形図を用い、以下の方法で基図を作成すること。

- ① 分版・・・基図は、国土地理院発行の地形図を平面・注記版、河川版、コンター版の3版に分版すること。
- ② 補描・・・分版した平面版・河川版・コンター版は、注記のあった箇所を補描し、地形に不足なからしめること。
- ③ 集成モザイク・・・地形図に座標展開を施し、位置精度の誤差がないよう集成モザイクすること。重複する地名等は最適な位置へ配置し、削除した部分を補描すること。
  - 作成した基図版は、ポジ反転されたポジフィルム上で経年変化修正を行い、図郭線を書き込んで整飾処理を行った上、再度ネガ反転しネガフィルムを作成し、基図版とする。
  - 地形を明晰に判別するため、以下の特色を使用する。
    - 鼠・・・平面、注記
    - 薄茶・・・コンター

➤ 水……河川沼湖

経年修正は、公的機関で作成された測量成果の内、入手可能な最新の情報を5万分の1図式で表現する。

(ウ) 主題情報の更新

貸与資料から主題情報の更新を行う。

受注者は、発注者が作成する貸与資料用の資料として、基図に主題ごと情報を掲載した出力図を作成し、提出すること。

### 3. 製図

以下の作成方法または以下の作成方法による品質を担保する手法で、事業計画等を作成すること。

(ア) 清絵……基図をジアゾ焼きし、原稿図をもとにして区域・道路等の界線を加色版ごとに分版製図する。

(イ) マスキング……色ごと・スクリーンごとの分版模範を作成し、分版模範に従いピールコートにて必要部分の遮光フィルムを切り抜き、不必要部分をオペークする。

(ウ) 植字印字……地図レイアウトに合わせ原稿から必要な文字を抽出し、文字書体・級数を指定の上、植字原稿を作成する。植字原稿に基づきストリップフィルムに印字する。文字の意味と見やすさを考慮し、字体・級数・印字位置・印字方法を決定する。

### 4. 製版

以下の作成方法または以下の作成方法による品質を担保する手法で、製版すること。

(ア) ネガタイプ製版を採用すること。

(イ) ネガタイプ多重焼の仕様は、発注者と協議の上、決定すること。

(ウ) 地形及び主題情報を明晰に判別するため、以下の特色 12 色を使用する。

・基図: 特色 3 色 鼠色/薄茶色/水色

・主題: 特色 9 色 黒色/赤色/青色/茶色/橙色/桃色/緑色/紫色/黄色

※ 指定された色数以上の特色を使用する場合には、担当者と協議の上、承認を得ること。

※ 減色は認めない。

### 5. 校正

校正は2回とする。1回につき3部提出すること。

※ ただし内容に著しく不備がある場合には、担当者の承認があるまで色校正を提出するものとする。

### 6. 印刷

(ア) 特に精度を有するため、印刷機の回転数を調整し、且つ「印刷版替え」「見当合わせ」に留意すること。

(イ) オフセット印刷を採用すること。

(ウ) 特色の調合を行うこと。

※ カラーパッチ等での指定は行わないため、見本を元に同等のインクを練り合わせること。

(エ) 用紙は地図専用用紙を使用すること。